大阪城
2021 2/18 (木) 14142号
全港湾西成分会
でんわ 6647-4947

ワクチンが打たれはじめたようだ。
まず、医者とか医療関係者4万人からで、65歳以上の高齢者3600万人は4月以降のようだ。日本のコロナの死者もワチ人をこえ、中国の4千6百人余をぬき、1万人も時間の問題で、高齢者はコロナにかかれば、生きぬくのは、かなりきびしい感じがする。

今度のワクチンは、コロナウィルスの遺伝子情報をつかって作るワクチンでメッセンジャーRNA(mRNA)とかいうのを使っているという。
科学技術は進んでいて、人工的に今のコロナウィルスを作くり出せるようで、構造からつくる元素、原子の材料までは解明しているようだ。ただ、このワクチンがどこまで有効か？は、これからの話になる。

日本の近代医学は、将軍吉宗のオランダ医学解禁、明治の軍隊医学などをへて前進してきてはいるが、最近の保健所の縮小や解体、階級・格差社会での金のかかる医療に変質、堕してきている。生命のかかったコロナ禍の中で、医学・医療の畑の中で、より生きぬくために、横につながり、声を上げ、労働者・民衆がやるべきことは生れてきているように思う。

新型コロナウイルス・ワクチン接種はじまる。

特例承認されたファイザー社製の新型コロナワクチン、きのう17日から医療従事者４万人を対象に先行接種がはじまった。

１００の医療機関が先行接種として４万人の医療従事者。４万人のうち２万人には、１回目の接種から、３週間後の２回目の接種、２回目から28日間の合計７週間を確保して継続的に観察日誌をつけてもらい、安全性についての調査を行うという。先行接種分で余りが出た場合は、それ以外の医療従事者に順次活用していく。厚労省が推定する医療従事者約３７０万人について、各都道府県から上がってくる数に応じ、配分するワクチン量を今週中に決定するとした。

感染した際に重症化リスクが高いとされる高齢者の接種については、４月からの接種開始を見込む。

一方で、当初は１瓶あたり５回としていたワクチン接種の回数について、「非常に貴重なワクチンである」との考えから、１瓶あたり６回取れる特殊な針・シリンジの調達を進めているとした。

（ABEMA NEWS）

新型ウイルスの爆発的拡大パンでミックスに襲われてひたすら自粛・引きこもり以外に手の打ちようがない状態に押し込まれている中で、「溺れる者は藁でもつかむ」じゃないが、頼りがいのある救助船らしきものがようやく現れたような展開になってきました。しかしこの先ワクチンの争奪戦が始まっているようなのでみんなに行き渡るのはかなり先になるようなきがします。